

第2期 能代市中心市街地活性化ビジョン 中心市街地活性化計画

#元気発信

#便利実感

#魅力発見

～きて みて 発見 のしろの元気～



2019年3月
能代市

計画策定の背景・目的

本市の中心市街地には、商業施設、官公庁、文教施設、金融機関、医療機関等、市民生活に必要な施設や機能が集積し、経済的・都市的活動の中核的な役割を果たしています。しかし、モータリゼーションの進展、国道等の幹線道路のバイパス化やそれに伴う大規模集客施設の郊外立地、病院や学校等の郊外移転、居住人口の減少等の時代の変化により、中心市街地を取り巻く環境は一層厳しい状況に置かれるものと予測されます。

こうした状況を踏まえ、平成 19 年度に第 1 期能代市中心市街地活性化ビジョンを、20 年度には第 1 期能代市中心市街地活性化計画を策定し、中心市街地の賑わい創出に向け各種施策を実施してきましたが、事業効果は限られた範囲にとどまっており、中心市街地活性化に向けた取り組みを今後さらに強めていく必要があります。

そこで、これらの課題や中心市街地活性化推進協議会の意見を踏まえ、商業者や市民団体が一体となって中心市街地のさらなる再生・活性化を図るため、新たに、第 2 期中心市街地活性化ビジョン・中心市街地活性化計画を策定し、引き続き活性化に向けた取り組みを推進することとしました。

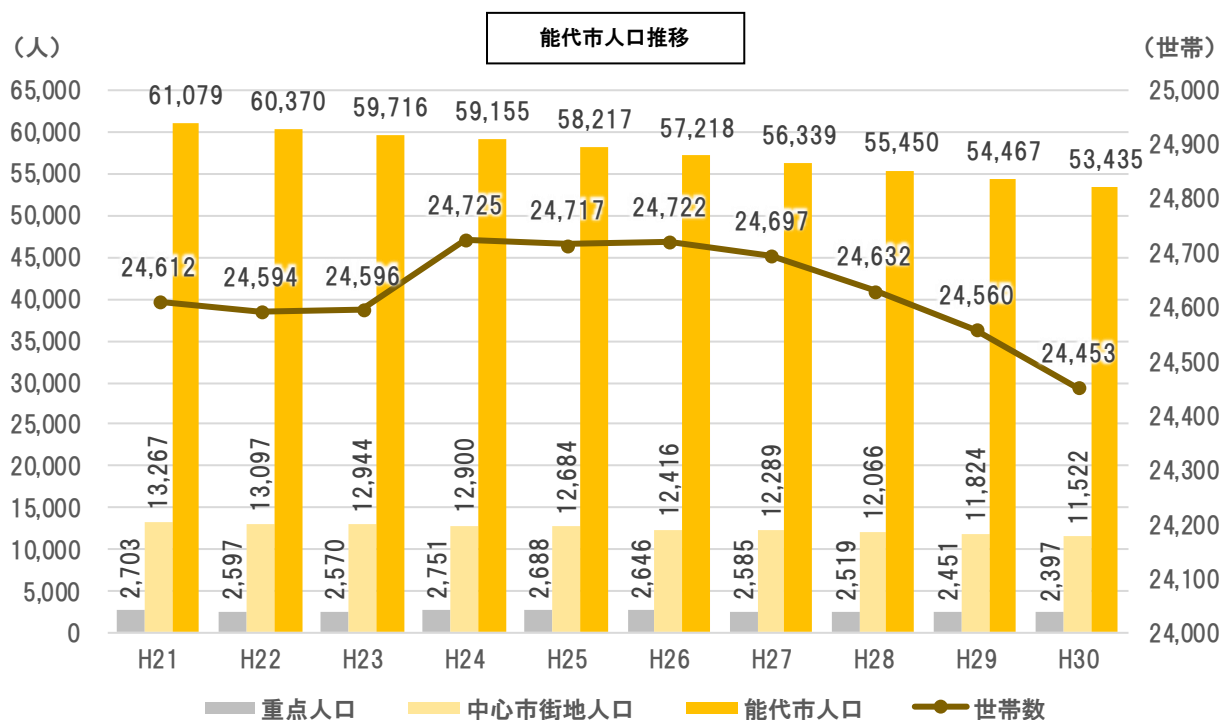
本計画の計画期間は 2019 年 4 月から 2024 年 3 月までの 5 年間としています。

能代市及び中心市街地の現況

■人口動態

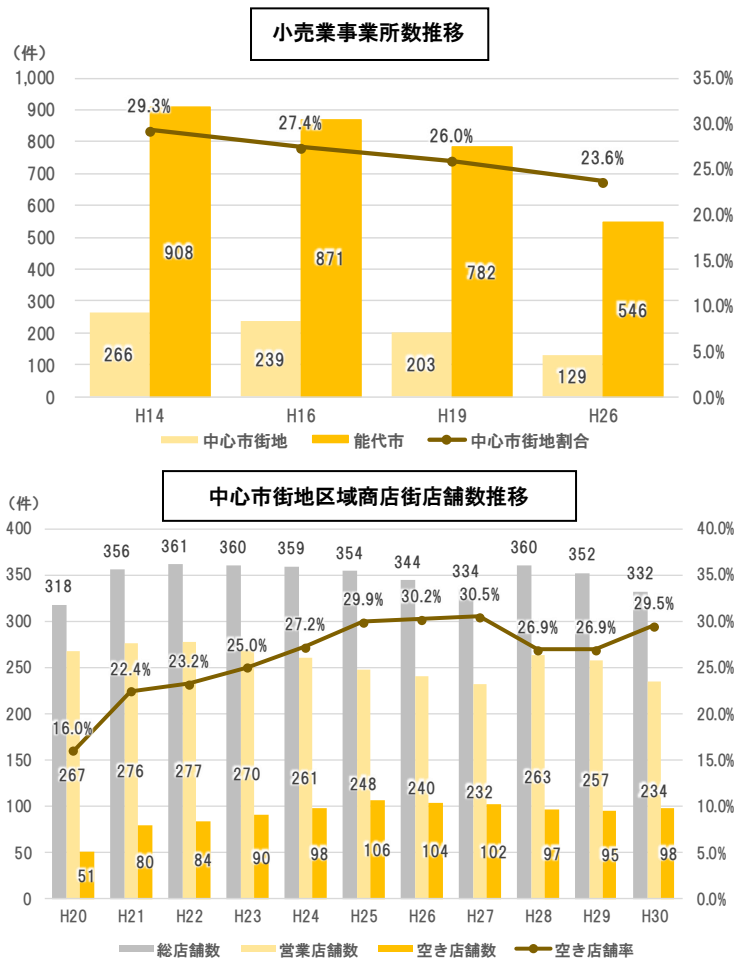
能代市の人口は、平成 21 年時点から 1 割以上減少しています。市全体・中心市街地・重点区域の全てで減少傾向にあります。重点区域では比較的緩やかな推移となっています。

中心市街地の居住人口を年齢別に見ると、「年少人口」と「生産年齢人口」の割合は減少し続けているのに対し、65 歳以上の「老年人口」の割合は増加し続けており、平成 27 年時点で 4 割を超えています。



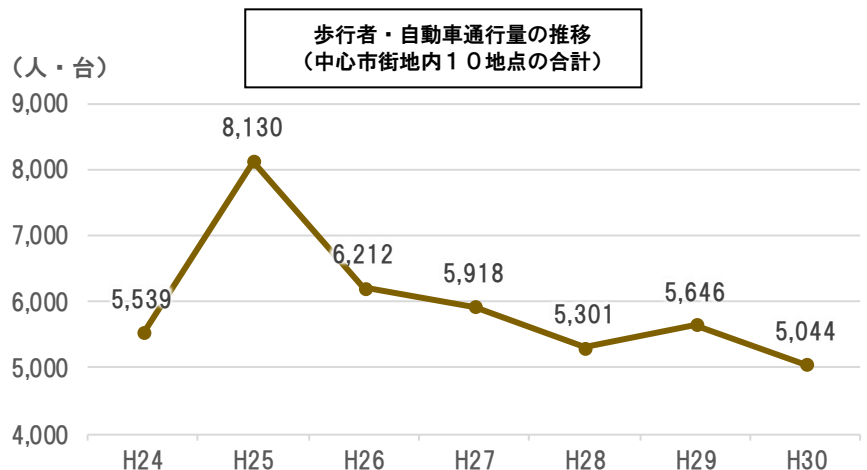
■経済活力

平成 26 年の中心市街地商店街の小売店舗数は 129 件で、平成 14 年の 266 件と比較し半分以上となっています。また、市全体に対し中心市街地が占める店舗数の割合も低くなっています。平成 30 年の中心市街地商店街の空き店舗数は 98 店舗、空き店舗率は 29.5%となっています。



平成 30 年の歩行者・自転車通行量調査では、中心市街地 10 地点の歩行者・自転車通行量の合計は 5,044 人となっており、平成 24 年からみると、全体として減少の傾向にあります。

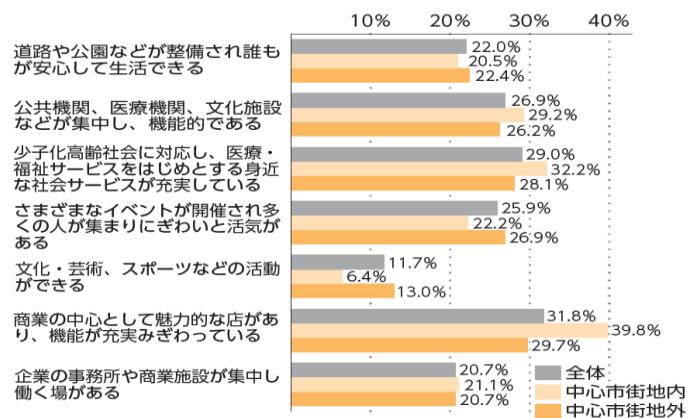
地点別に近年の通行量の変化をみると、中和通りは増加傾向にありますが、JR 能代駅前、駅前市場の閉店の影響もあり大きく減少しています。また、高校生以下の若年層や高齢者の通行量が、多くの地点で減少しています。



地域住民の意向

■市民アンケート結果

中心市街地のまちづくりの方向性についてふさわしいものとしては、中心市街地居住者、中心市街地外居住者ともに、「商業の中心として魅力的な店があり、機能が充実し賑わっている」の割合が最も高く、次いで「少子高齢社会に対応し、医療・福祉サービスをはじめとする身近な社会サービスが充実している」となっています。



■事業者アンケート結果

商店街の活性化のために大切だと思う取り組みについては、最も多いのが「空き店舗対策」で、次いで「人が集まり、交流できる場所」「魅力的な店舗づくり」となっています。

■来街者アンケート結果

イベント（天空の不夜城）開催日と休日に中心市街地を訪れた方を対象に調査したところ、グループで来るという方が両日ともに最も多くなりましたが、休日には一人で来るという方も比較的多くなっています。また、来訪者の年齢層は10代の中高生や30～40代の子ども連れのファミリー世代が多く、来訪先としてはイオン能代店、次いで商店街の飲食店となっています。

第1期計画の総括

■目標1 歩行者・自転車通行量（中心市街地内6地点の合計）

歩行者・自転車 通行量（平日）	平成25年（実績）	平成30年（目標）	平成30年（実績）
	5,218人/日	5,218人/日	3,501人/日

地点別での歩行者・自転車通行量の増減を見ると、多くの地点で通行量が減少しており、特に畠町通りやJR能代駅前で大きく減少しています。

高校生以下、成人、高齢者の区分ごとの歩行者・自転車通行量の増減を見ると、多くの地点で高齢者の通行量の減少が顕著です。中心市街地の年齢別人口で、65歳以上人口は増加傾向にありますが、中心市街地に居住している高齢者の外出する頻度が減少していると考えられます。



■目標2 空き店舗率

空き店舗率 （営業店舗数）	平成25年（実績）	平成30年（目標）	平成30年（実績）
	29.9%（248店舗）	31.9%（241店舗）	29.5%（234店舗）

総店舗数、営業店舗数、空き店舗数のいずれも減少しており、平成25年と比較して空き店舗率に変化が見られない結果となっています。

建物が老朽化し店舗としての利活用が難しいことや、貸す側と借りる側の条件がマッチしないことなどが課題となっています。



■ ■ ■ 中心市街地活性化の課題 ■ ■ ■

■ 課題1 多様な連携等による商業の活力づくり

業種や品ぞろえ、接客など既存の枠にとらわれない商業者の意識改革や、商業者同士の連携などにより、個店の振興を図る必要があります。また、生徒・学生や子育て世代など多様な人を巻き込み個店の魅力をPRする取り組みや、事業継承、創業者支援などによる商業者の育成を図りながら、中心市街地内への来街者を増やす取り組みが必要です。

■ 課題2 多機能で生活利便性の高いまちづくり

商業や医療、行政などの機能が集積していることが中心市街地の魅力となっており、既存の都市機能を維持するとともに、空家・空地や空き店舗等を有効利用することで、魅力的で生活利便性の高いまちづくりを進める必要があります。また、高齢者や障がい者など様々な立場の方が、鉄道やバス等の公共交通、自家用車、自転車など、多様な交通手段で移動しやすく来訪しやすい環境整備が必要です。

■ 課題3 中心市街地の回遊性の創出と支えるサポーターづくり

中心市街地で実施されるイベントへ訪れた方が商店街を回ってお店を利用するような、回遊を誘導する仕掛けが必要です。また、市民が中心市街地の商店街活動やまちづくりに関わる活動等に興味を持ち、主体的に活性化に関わるサポーターとなってくれるような取り組みが必要です。

■ ■ ■ 中心市街地活性化の将来像 ■ ■ ■

中心市街地の現状から「商業の振興」や「賑わいを波及させる商業環境」、「人が集まり交流できる環境づくり」、「中心市街地の回遊性の向上」、「まちの魅力の積極的な発信」等の取り組みをさらに強めていく必要があるとの課題が導かれています。

また、中心市街地活性化推進協議会で目指すべき中心市街地活性化のイメージや現状の課題等について協議する中で、「中心市街地活性化の取り組みは様々に実施されているが、市民全体にはあまり浸透しておらず、活性化につながっていない」「元気に商売を行う環境づくりが必要」「商業者の意識改革や、まちを元気にする取り組みが必要」等の意見が出されています。

これらの課題や中心市街地活性化推進協議会の意見を踏まえ、商業者や市民団体が自分たちの取り組みを積極的に情報発信し、地域住民や来街者が商店街や街なみの魅力に触れ、その良さを実感することで活性化につながっていくまちづくりを目指し、将来像を次のとおり設定します。



■ ■ ■ 中心市街地活性化の基本方針・目標 ■ ■ ■

中心市街地活性化の将来像を踏まえ、3つの基本方針と7つの目標を定め、事業を展開していきます。

■ 基本方針1 商業の振興

目標1 個店の商売繁盛

- 店舗の魅力アップ推進事業
- イベントや集客施設への来街者等を商店街へ誘導する取り組み
- 商品開発推進事業
- 街なか商店街イメージアップ事業

目標2 商店街活動の活発化

- 商店街活性化対策事業
- 商店街等情報発信事業
- 来店機会向上事業
- 能代逸品会事業

目標3 未来へつなげる事業展開と次世代へのバトンタッチ

- ◇ 勉強会の開催
- 後継者対策
- 空き店舗利活用促進事業
- 起業等促進事業

※●実施事業 ◇検討事業



1 商業の振興

主な事業

イベントや集客施設への来街者等を商店街へ誘導する取り組み

天空の不夜城やおなごりフェスティバル等のイベントを商業振興に結びつけるため、観光協会や商店街等が互いに連携し、商店街へ来街者等を誘導するマップの作成やイベントにちなんだコラボメニュー及び新商品等を開発する。

商店街等情報発信事業

商店街の取り組みや中心市街地の賑わいを市民等に広く知ってもらうため、広報誌や小冊子、SNS等の多様な媒体を活用し情報発信する。

来店機会向上事業

来街者や市民が商店街を訪れて各店舗を知ってもらうため、スタンプラリーやまちゼミ、まち歩き等の「来店のきっかけ」づくりを推進する。

勉強会の開催

商店街活動の発展及び中心市街地の活性化を図るため、商店街や各個店で実施した事業を振り返り、未来へつなげる事業展開を考えるための勉強会を開催する。



■基本方針2 生活の利便性の確保

目標4 人が集まり交流あふれる生活

- 市民プラザ事業
- 畠町新拠点事業
- 街なか寄り道スポット創出事業
- 子ども館・エナジウムパークジョイント
- 店舗の魅力アップ推進事業
- イベントや集客施設への来街者等を商店街へ誘導する取り組み
- 来店機会向上事業

目標5 便利で楽しい普段の生活

- 能代市巡回バス運行事業
- 生活バス路線等維持費対策事業
- 自転車走行環境整備事業
- 市民サービスセンター運営事業
- 空家調査事業
- 移住定住環境整備事業
- 空き家バンク事業
- 北高跡地活用調査等事業
- 中心市街地再開発調査事業

2 生活の利便性の確保



主な事業

街なか寄り道スポット創出事業

商店街に賑わいを創出するため、幅広い年齢層の市民が、気軽に立ち寄れる場所を作る。

店舗の魅力アップ推進事業

店舗の魅力向上を図るため、アドバイザーによる指導・検証、個店ごとの業務改善、研修や店舗の景観改修等に取り組む。

■基本方針3 まちの魅力向上

目標6 能代らしさの発信

- 旧料亭金勇活用事業
- 能代バスケミュージアム事業
- バスケットの街づくり推進事業
- のしろ木工品市場事業
- 木のまちづくり推進事業
- ◇ 木でつくる街なみガイドライン
- 本因坊戦誘致事業
- 祭り・イベント等の開催
- 団体間連携推進事業
- DMO関連事業
- 商店街等情報発信事業
- 街なか商店街イメージアップ事業

目標7 まちの魅力を発見

- まち歩きイベント
- 能代市市民活動支援センター事業
- 街なか美化運動
- けやき公園の定期イベント
- ◇ 中心市街地活性化シンポジウム開催事業

3 まちの魅力向上



主な事業

まち歩きイベント

市民がまちの魅力を知り能代らしさを実感するため、中心市街地の街なみを舞台として、歴史文化の再発見、お店巡り、健康促進等、様々なテーマでまち歩きを実施する。

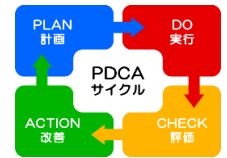
中心市街地活性化シンポジウム開催事業

市内外の人に中心市街地に対する興味・関心を持ってもらうため、中心市街地に関わる様々な取り組みを紹介するイベントを開催する。

※●実施事業 ◇検討事業

■ ■ ■ 検証指標 ■ ■ ■

中心市街地活性化計画の効果を検証するため、以下の指標を設定します。検証にあたってはPDCAサイクルの手法を取り入れ、毎年度調査と確認を行って計画の効果や進捗状況を評価し、改善へつなげていきます。



※PDCAサイクル：Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する業務管理手法。

検証指標 1 歩行者・自転車通行量 / 検証指標 2 誘客施設利用者数

商店街でのイベント開催や個店の魅力向上の取り組み、気軽に立ち寄れる居場所づくり、巡回バスの運行等を通して中心市街地への来街者の増加や利便性の確保、まちの魅力向上を目指すこととしていることから、賑わいの状況と来街者の回遊性を把握するための評価指標として、「歩行者・自転車通行量」と「誘客施設（市民プラザ、畠町新拠点、旧料亭金勇、バスケミュージアム）利用者数」を設定します。

検証指標 3 商店街等の加入店舗数 / 検証指標 4 空き店舗数

商店街活動の活性化や情報発信の充実、起業の促進、新商品開発、市街地の美化・イメージアップ等を通して商業振興や事業者の意識改革を目指すこととしていることから、商業活動の活性度を示す指標として重点区域内の「商店街等の加入店舗数」「空き店舗数」を設定します。

検証指標 5 市民意識調査

中心市街地活性化の全体的な傾向を把握するため、市民意識調査により「中心市街地が活性化していると思う」人の割合を把握します。



お問い合わせ

能代市環境産業部 商工港湾課 中心市街地活性化室

〒016-0821 秋田県能代市畠町 10-8 TEL：0185-89-1414 FAX：0185-89-1415

e-mail：syokou@city.noshiro.lg.jp